

議 会 広 報 広 聴 委 員 会 記 録

令和5年1月24日（火）
13時31分～15時45分
全 員 協 議 会 室

- 【出席者】三浦委員長、村武副委員長、
肥後委員、村木委員、大谷委員、沖田委員、川上委員、小川委員、
上野委員、川神委員
【事務局】河上局長、小寺書記
-

議題

- 1 はまだ議会だよりminiについて……………資料1
 - (1) 第19号掲載内容及び原稿担当
 - (2) その他

- 2 議会報告会について……………資料2
 - (1) 実施方針決定
 - (2) その他

- 3 はまだ議会だより紙面の見直しについて……………資料3
 - (1) 見直し内容協議
 - (2) その他

- 4 1年間の取組の振り返りについて……………資料4
 - (1) 振り返りと今後の取組
 - (2) その他

- 5 その他
 - (1) 2/7全員協議会での報告

【次回委員会開催予定日】令和5年2月17日（金） 午後1時30分から

【議事の経過】

[13時 31分 開議]

三浦委員長 議会広報広聴委員会を始める。出席委員は9名で川神副議長が少し遅れるそうだが定足数に達しているので議題に沿って進める。今日はその他を含め五つある。

1. はまだ議会だよりminiについて

(1) 第19号掲載内容及び原稿担当

三浦委員長 掲載内容と原稿担当者を決めたい。小寺書記から説明をお願いする。

小寺書記 (以下、資料をもとに説明)

三浦委員長 内容を決めたい。各委員会が行政視察に行かれるので、書く項目はあるかと思うがどうか。次号の本紙発行まで時間があるので、できるだけminiを使ってタイムリーに情報発信したほうがよい。紙面拡大して視察報告特集として各委員会に書いてもらっても。ウェブなのでお金もかからないし、そうしようか。

(「異議なし」という声あり)

では視察へ行かれた報告特集ということでよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではA3程度が2ページくらいを想定して書きたい。ボリュームはどれくらいにしようか、ふだん書いている2コマ分程度にしようか。

小寺書記 1ブロックで大体500文字くらいなのだが。写真で少し減る。

三浦委員長 1ページ使って写真も掲載すると多分文字量も限られてくると思うので、通常のminiの1ページ分を使っていただく感じで、それぞれレポートを。

小寺書記 総務のページ、福祉のページ、産業のページ、議会改革とつぶやきと議長日誌のページといったイメージでよいか。

三浦委員長 どうしようか。議会改革が少し減ってしまうか。

小寺書記 特別委員会なのでそのくらいにしてもよいという考えもある。

三浦委員長 では3常任委員会は1ページ使っていただき、特別委員会は2ブロック分使って。つぶやきと議長日誌はそのままにしようか。ちようど行政視察レポートも書かれると思うので、その概要版とし

川上委員
三浦委員長
大谷委員
三浦委員長
村木委員
三浦委員長
村武副委員長
三浦委員長

てまとめていただけたらと思う。その方法でよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

では各委員会で担当を決めていただきたい。

産業を。

では産業は川上委員。

総務を。

総務は大谷委員。福祉は。

はい。

村木委員に。議会改革は。

はい。

村武副委員長にお願いします。議員のつぶやきはどうか。

まだつぶやかれてない方は。小川委員よろしいか。

小川委員
三浦委員長
小川委員

県大との共同研究事業報告はやらないのか。

これもどこかでまとめて発表したいのだが。

先般意見交換させてもらい、あの感想なら書けると思った。もしどこかで記事になるなら同じような内容だとよくないか。

三浦委員長

miniに県立大学との共同研究事業の報告を載せるのはボリュームが増えるので、本紙でもよいかと思っている。気軽な、身近な話題で。委員会活動などの範疇を超えていただいてよい。

川上委員
三浦委員長

私が。

では小川委員には次号のつぶやきをぜひお願いしたい。川上委員がご担当くださるとのことなので、よろしくお願いします。ほかの委員も記事の制作、写真の提供等お願いします。

(2) その他

三浦委員長

miniについてはほかにないか。

(「なし」という声あり)

ではそのようによろしくお願いします。

2 議会報告会について

(1) 実施方針決定

三浦委員長

各会派に持ち帰って意見を集約してきていただいているかと思うので、その報告をお願いします。先般の議論で3案が出ていたが、これに限らず会派で出た意見があれば報告いただきたい。

村木委員

山水海から報告する。この報告会においてはまず参加者が少ないという課題をどう捉えるかを考えて、会場数を増やしても逆にそれによって分散する可能性もあることから、議会からの能動的な報告機会は地域協議会、地域協議会との意見交換は今後も継続すべきではという意見もあり、これを継続することを担保として新たにリクエストがあったところへ出向くという新しい制度を取り入れてはどうかという案が出た。具体的にはどこかの地域や団体がオファーし、ある程度チームをつくって議会から出向く。募集の際にテーマが明確であれば所管委員会での対応、フリーテーマならあらかじめ決めたグループで順番の対応でどうだろうか。

なおオンラインについては、そのときのフリーテーマ等の要望に応じて適宜対応しようというところでとどめたい。

三浦委員長

ほかにはいかがか。

小川委員

特に別案はなく、諮った中ではB案だろうということだった。

三浦委員長

ほかにはどうか。

大谷委員

3案の中であれば小川委員が回答したように、選ぶならB案だが、それでも負担が大きいので、雰囲気的にはAとBの間くらいのように個人的には感じている。

オンラインの必要性は特になかったように思う。まずは新しいものをどう取り組むかという論議だったように受けとめている。

地域協議会とは今年やったような意味のものだと思う。ただ、地域協議会は執行部側の下部組織の一つでもあるので、そこに議会が絡む形はどうか。今はコロナ禍における臨時的な対応としてやっている。確かに地域協議会から継続要望はあるかもしれないが、本来の意味合いをできるだけ追及するほうがよいと思う。

三浦委員長

創風会いかがか。

肥後委員

3案いずれもこれだという決め手はないという回答だったが、従来のA案の実施方法だと、議会から聞きたいことを市全体の大きい事業の部分を説明する方法と、地域の人、地域協議会であればその委員から聞きたいことを吸い上げて、その二つくらいにテーマを絞ってやるくらいしかないのでは。昨年やった地域協議会との意見交換会自体がこなれてないのではという意見が出た。まだ会派としてこれというのがない現状である。

三浦委員長

当委員会には公明クラブがおられないので事務局を通じて意見

を事前に伺っているので私から披露したい。3案について、出された意見に対してしっかりと回答や対応を行う必要が求められるのであれば、数が多くなると難しくなると思うので、この中でいえばA案がよい。議会報告と銘打つなら新年度予算の中心的なものは示す必要があると思う。前段をできるだけ簡素化して、報告2割・意見交換8割くらいでやってはどうか。

オンラインについては特に若い世代には有効かもしれないが、なるべくなら対面式のほうがいろいろな意味で伝わりやすいと思う。相手を絞って試験的に行ってみてはどうか。通信不具合等による対応に負担がある、とのことである。

テーマ設定は、地域課題解決のために協働のまちづくりについてをテーマにして意見を募ってはどうかというものがあつた。

議会報告会でいただいた意見をどのように取り扱っていくかについてだが、市民は議会がどのように対応してくれるのか期待されている場合が多いのではないかと。開催前にいただいた意見などの取扱いや対応について、市民に周知しておく必要がある、といった意見を伺っている。

会派それぞれ意見を持ち寄っていただいたが、今日は方向性を出していきたい。他会派の意見も踏まえて皆どのような意見を持っているか伺う。

ちなみに地域協議会と意見交換するのは議会として駄目ではない。実施前に確認している。諮問機関ではあるが、だから議会がやってはいけないというルールはないことだけお伝えしておく。ただそれが、意見交換をするパートナーとして適切かどうかという意見は伺っておきたい。

村武副委員長

先日議会改革推進特別委員会で美咲町に視察に行ってきた。その際、美咲町でも議会報告会は実施していたが参加者が少ないという課題をどうするかで、出前議会を始められたという話を聞いた。出前議会とは、リクエストがあつた団体などにこちらから出向いて報告や意見交換会をしているそうである。美咲町は広報広聴特別委員会の委員だけが行っているとのことだが、浜田市議会は全議員で対応してもよい。

9月には藤原地区地域福祉ネットワーク、錦織地区保護者の会に行つたと書かれている。たくさんの方からリクエストがあ

って全て行くのはなかなか難しいので、例えば年間何団体と最初に決めておくなど、考えてやっていけばよい。

小川委員

地域協議会との意見交換はできる。しかし参加されている方は執行部側との意見交換の場で恐らく協議会としての意見を市長にぶつけている。議会とそういう場をつくれたとしても、議員には予算執行権がないので、向こうにしてみれば意見は投げるが執行部と議会側となるとニュアンスが違うのではと感じる。

先ほどの公明クラブの話の中でも、出された意見にどう回答するか、対応していくのかという、事後の扱いについても幾らか負担感のことを言われていた。執行権はないから意見は幾らでも聴くというスタンスがすごく強かった。当市議会では市民から寄せられた意見を内容ごとに各常任委員会に振って、その後追いをどうするか検討しているが、その負担がかなりある。そこまできちんとした対応を求められることがセットとなると、かなり負担が大きくなり過ぎる。そういう意味で地域協議会との関係はそもそも私の認識では、コロナ禍で議会報告会ができないのでせめて地域協議会なら地域課題について意見集約されているのではなかろうかと、その方とやることで地区の実情を伺うという趣旨だった。今後対面できる状況になれば、地域協議会との意見交換は終わってもよいと思っている。

三浦委員長

ほかにどうか。今日は方向性を出していきたいので、答えを出していき議論をぜひ深めたい。

川上委員

私も地域協議会とやってもよいと思っている。理由は、地域協議会委員は多分各まちづくり委員会を代表して出ている。地域の意見や問題点、要望をつかんでいる方なので、議会が意見を集約しやすい相手と考えている。強いて言えば、それだけではなく集約する各まちづくり委員会を分けてやっても構わない気もしている。あとはどう分けるかだと思う。センターごとにやっても、おいでになる方はあまり変わらない気がする。だから地域協議会との意見交換は、まだやってもよいと考える。

三浦委員長

ずっとこの議会報告会は参加者が少なく、どうすれば多くの人から意見を伺える場がつかれるかという課題をずっと持っていた。場所を増やすと分散するという声も実際ある一方、できるだけ細かく回ったほうがよいという意見もある。開催方法などについて

も、皆どのように思われたか伺ってみたい。

超党みらい、負担感が多いというのは、1回の議会報告会で4回出向く回数負担が大きいということか。回数を増やすと聴く意見も多くなるから、対応も踏まえるときちんと対応しきれないのではという感じか。公明クラブからも、聴いた意見を返していくと言われている。当委員会でも対応含めての広聴だということはずっと出ているので、これについても考えないといけない。C案のような話は皆から出てこなかったもので、ある程度まとまった場所に議会が出向くという方向性はあるのかと思うが。

肥後委員

山水海のリクエストというのは、何か周知して返ってきたところに行くと思うが、周知方法がどうかと思うが。

三浦委員長

美咲町はどのようにされていたのか。

村武副委員長

美咲町は広報されていると思うが、そこでなかなか出てこないで各議員が声かけなどをされていると伺った。

小川委員

町村段階と市の段階では住民との距離が違うような印象を受けた。美咲町では議会だよりそのものについて報告して、意見交換する。ふだんの会話のように町民と議会側が接点を持ちながら、あまり構えずに意見交換している。議員の個人的意見は言いにくいといったような雰囲気は一切なかった。そういうところなら住民からリクエストがあれば行きやすいと感じた。

村武副委員長

地域協議会は続けてもよいと感じる。ただ、山水海から提案したリクエストのあったところに行く場合、例えばまちづくり組織からのリクエストもあると思うが、そういうことが増えてきたら地域協議会はやらなくてもよくなるかもしれない。それまでは地域協議会ともやり、リクエストのあったところに行くのがよい。

三浦委員長

旭で議会報告会をやってほしいという声がある。仮に地域協議会との意見交換会を継続したときにも、ほかの地域から要望が出ると想定されるか。

上野委員

今年5か所ほど、2年間なかった自治会の総会があったのでそれぞれ出席したが、議会報告会をできればやってほしいと言われた。コロナの関係でなかなかできないが、代替としてアンケート箱をまちづくりセンターに設置しているので、意見や要望を出してくれと各地で言っている。地域協議会は本当に皆の意見を聴いているのか疑問もある。旭の議会報告会はその会場でも40人50人の人

が集まっていた。1人が発言すると皆つられて発言し始めていた。出席数が少ないとなかなか意見が出にくい。地域協議会よりも皆が集まったほうが意見を出しやすいのかと感じた。

三浦委員長

各会派から、委員外議員がどう思っているかなども発表してもらったのだが、回数が増えれば人が分散して1会場の人数が減り、意見を言いにくい雰囲気につながるのではないかと、だから闇雲に回数を増やすよりは時間を確保して、戻すサイクルをきちんとつくるほうに注力したほうがよいのではという話もあった。参加者が固定している、少ないなどの課題はずっと持っている。

川神委員

住民目線でどの程度の機会をつくるかが大事。まちづくりセンター単位くらいで、B案あたりが落とすところではないかと思っている。回数が増えるのはやむを得ない。今まで特に浜田地域はエリアが広く、少しずつ課題を話そうと思っても意識が非常に低い。それなら意識を集約できるようエリアを絞り込んで、そこにある程度の人間が行って話を聴くのが最初ではないかと思っている。小さくし過ぎるのもどうかと思うが、協働のまちづくりの中でまちづくりセンターをつくりながら、自己完結型のまちづくりをしている。ある程度の共通認識の枠内に我々が出向き、地域コミュニティの話聴くのがよい形だと思う。まちづくりセンターもしくはそれに類する単位で我々が出向くのがよいのでは。回数は増えてもそのほうが住民目線に寄り添うことができる。

三浦委員長

エリアのことを聞いてみたが、出向いて伺った意見はどれも貴重だが、全てを議会で対応するかというと、議会内でまた議論した際にその意見に対して賛成議員も反対議員もいたり、あるいは別の意見を持つ議員がいたり、さまざまだと思う。いただいた意見全てに対して議会が同調して動くということにはならない。それをどうするかを議会内で考えていくことが広聴機能の大事な点で、結果的に違う対応になったとしても、なぜそういう対応になったのかをきちんと戻すプロセスができていればよいと思う。

行った先で議会としての対応を答えられないことはもちろんあると思うが、その場合は、個人の意見としてはこう思うと述べていただき、それを持ち帰って所管する委員会で協議してもらって返すというプロセスがあればよいのでは。

小川委員

発言する方は統一見解や議会としてまとまった意見を聞くので

はない。お互いの意見交換ができれば参加者は幾らか充足感があるような気がする。議員と近いところで意見交換ができることがすごく大事なポイントではないかと思った。

川上委員

先日小国地区の新年会に出席した。議員は3人、参加された方は48人。9月、12月定例会議の概要報告と、各委員会の報告をさせてもらい、終わった後にご意見を伺う、質問していただく形だった。7人から意見や質問があった。対応していることに対しては言ったが、できないことに関しては持ち帰りに対応した。すぐ対応できそうなことは翌日に執行部に伝え、残った案件は我々3人が働いていくことにしている。そういう形になるのだと思う。執行部がすぐできることについては執行部に投げる。私どもが考えなければいけないものは今後検討する。そう返事をしつつ、必ずお返しする。それが議会に求められていると思う。各地域協議会において、センターごとにしたらより一層問題点が明らかになってくるし、地域の問題が見えてくるので大事なことだと思う。

三浦委員長

まちづくりセンター単位でやるのが適切ではないかという意見が出た。細かくやることについて意見があるか。

大谷委員

まず今年度の5地区のうち私は3地区参加させてもらったが、地域によって違いがある。それを浜田市全体の枠組みでとなったときに、どうしても対応し切れないようなシステムになるところがあるので、幾らかまちづくりセンター単位で分けることはやらざるを得ないだろうと思う。

例えば浜田地域内でもいろいろな違いがある。中学校区のような区分け内で、幾つかのまちづくりセンター枠の中でやるのが、間としてはありかなど。国府地区と西部の3中校区内で若干違いがあると思うので、地区をもう少し細かくすると身近な問題として話しやすいのかと思う。一つ一つのまちづくりセンターでなくても似た地域は一緒にされてもよいと思っている。

三浦委員長

中学校区単位という区切り方もあるというアイデアだと思う。

川上委員

参加する議員として、3常任委員会から出ていたほうがよいので最低3人が行く形が必要かと思う。

三浦委員長

所管委員会はばらして行ったほうがよい。今大きく出た意見としては中学校単位くらいのエリアでやることと、もう一つはまちづくりセンター単位で細かくやる。大きく分けて二つかと。

- 大谷委員 中学校単位と言ったが、旧市内は中学校単位でよいが、いわゆる旧那賀郡については中学校単位にすると広くなると思うので、それは地域の状況に応じて。
- 三浦委員長 従来の浜田地域はどうなっていたか。2か所か。浜田地域はそれを細分化すると。旧那賀郡の4地域は1か所ずつ。
- 沖田委員 コロナ前、少なくとも国府は春の議会報告会を国府公民館でやって、井戸端会を上府分館でやった。春と秋で分けてやっていた。
- 三浦委員長 旧浜田市は大体中学校単位だったと思う。それぞれメリット・デメリットを考えないといけない。地域協議会との意見交換会を残して従来の開催箇所くらいでやるか、地域協議会との協議を残してまちづくりセンター単位でやるか。地域協議会との協議はなくして、従来型の市内10箇所程度で実施するか、もしくはまちづくりセンター単位でやるか。大きく分けて4パターン。
- 大谷委員 旧浜田でこの前やった地域協議会の枠だと大きすぎると思うので、これは分けざるを得ない。その分け方をどうするかは論議があるとは思いますが。地域協議会の枠でということで話をすると窮屈かと思う。地域協議会については来てくれと言われたら行くスタンスはあってよいと思うが、次年度に向けての枠組みは地域協議会という枠でないほうが私はよいと思う。
- 三浦委員長 1時間くらいたつので休憩を取りたいが、休憩中に皆に考えておいていただきたい。地域協議会との意見交換会を継続するかどうか。それは議会報告会をどの単位でやるかにも影響してくると思う。それをやることで担保されているから地域協議会との意見交換会はもうよいという話もあると思う。それも含めて自身の意見を整理してほしい。よろしく願います。

[14時 21分 休憩]

[14時 42分 再開]

- 三浦委員長 休憩前に引き続き会議を再開する。休憩中に整理してもらった意見を披露していただきたい。
- 大谷委員 広報広聴の視点を持っていく中では、各地の実情に応じて意見を伺うスタンスが大事なので、B案のまちづくりセンターをベースにした形がこの3案の中では一番よいかと思う。ただ、地域ご

とに見たときにはまちづくりセンターを分けたほうがよい地域もあるかもしれないし、場合によっては集約して声を聴くほうがよい場合もある。それは地域の実情に応じて枠組みを決める方向でよいのでは。結論としてはB案ベースで論議を進めてはどうか。

川上委員

B案ベースというのは私も非常によいと思う。ただし、せっかくなので各地へ行く場合は3常任委員会から行く形がよい。

三浦委員長

ほかにあるか。ではまちづくりセンターを基本にしたB案をベースにして考えていってはどうかと。ただ地域の実情、まちづくりセンターが所管しているエリアの人口規模感も違うので、そこは配慮しながら、一緒にしたりさらに細分化したりといったことは今後詳細を詰めていきたい。

なお、班編成について3から4人と書いているが、所管委員会の現状を伝えたり対応したりできたらよいので常任委員会の委員が派遣される方向性で進めたいがよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではB案を基調にして詳細を今後詰めていきたい。また、いただいた意見をどう取り扱うかも議題に上がっていたので、これも今後の議論の中で整理する。

(2) その他

三浦委員長

ほかはないか。

(「なし」という声あり)

3 はまだ議会だより紙面の見直しについて

(1) 見直し内容協議

三浦委員長

各委員から事前に意見をいただいている。事務局にまとめてもらったので、これに沿って各委員から簡単に説明いただきたい。

川神委員

視察に行ったら何らかの形で報告があり市民にも触れる機会があると思うが、それをもう少し。いろいろな報告の中でこれがどう生かされたかも伝えるようになっているが、よい意味で軽いタッチで伝える。さらに外から視察に来られた場合は、何を見に来てどのようなことをやったか、入ったほうと出たほうとを市民に興味を持っていただけるような形で載せるのもよいと思った。

三浦委員長

確かにそういったところはあると思うので検討する。

村武副委員長

私は美咲町議会の視察に行つて町議会だよりを見て思いついたのだが、予算審査のところで「私の意見」というのがある。町議会で議員数が少ないこともあるが、予算決算委員会について一人一人の議員が、どこに着目してどのような質問をしたかを紹介したらよいと思った。

もう一つ、岩泉町議会の議会だよりを参考にしたが、ここもいろいろな表彰を受けている。「おしえてピーちゃん」というコーナーがある。このピーちゃんが議会だよりに登場してくる。こういったものを入れてみたら市民から親しみを感じていただけると思った。先日石見神楽議連もできたので、石見神楽のキャラクターを使ってこのように入れてみてはどうか。

三浦委員長

次は私だが、定例会議のポイントというのが冒頭にあるが、審査の様子があまり出ず、結論が書かれる表現方法になっている。実際にどういう審査がされたのか、どの議員がどのようなことを言ったのかがわかると、議会の動きとしては伝わりやすいのでは。ページ数の問題もあるができるだけ議会の様子がわかるようにしていくとよいのではないかという気づきを書かせてもらった。

次、ポイントのところを村武副委員長からお願いします。

村武副委員長

私も委員長がおっしゃったところだが、ポイントを削除するのがよいかわからないが、もう少しトピックスの画像を大きくしてわかりやすくしてみてもどうか。どちらにしてもトピックスとポイントのところを皆で協議して見直したほうがよいと思っている。

三浦委員長

私も、限られたスペースなので重複している内容はすっきりさせたほうがよいと思う。

沖田委員から補足はあるか。

沖田委員

全体的な話で文字が小さい気がしていた。ここ近年、新聞の文字が見えづらいということで新聞購読をやめる方が全国的に急増してきている。浜田市の高齢化率もかなり高い水準にもなっているし、皆に配慮することは常に検討していかなければいけない。

三浦委員長

個人一般質問について、大谷委員お願いします。

大谷委員

現状では質問した中の1項目しか上げられない。読者からするとそれだけしか質問してないように見える。最低限、どういうことを質問しているか大項目何点かの中から、こういうやり取りをしてこういう回答をもらったという要約内容を掲載し、Y o u T

u b eへ誘導するQRコードを入れて、詳しくはそちらを見ていただけたらというように、概略と詳細を誘導できる形にしてはどうか。そのためには最低でも現状の1枠から、最低2枠にはしたほうがよい。欲を言えば半ページくらい使えると詳しい状況を説明できる。増やすと経費がかかるのでカラーページを一部分にしたり、顔写真も小さくしたり、なくてもよい。できるだけ内容を多く掲載できるような紙面構成を提案した。

三浦委員長
村武副委員長
三浦委員長

次は市民対談について、村武副委員長。

何か議会が考えることができる内容や人選ができればよい。

次は私。議会からの報告と執行部からの報告は全然違うので、議会視点を持って議会だよりは編纂されないと駄目だと思う。市民対談をやっているけど議会視点が伝わりにくくなっていると感じる。なぜ議会が今そのテーマをピックアップしているのか、そういう視点をもっと入れたほうがよい。

例えば市民が関心を持っているテーマを掲げて、それに対して各議員がどのようなことを思っているのか、22人の意見を述べるといったページにすると、各議員の考え方がわかって市民に読んでいただけるのかと。

次に読者アンケートについて、村木委員。

村木委員

Q1は紙面に対する意見だと思うが、この1年間特に提出がなかった。Q2のフリートークのほうがあった。あらゆる角度から広聴する必要があるが、読者アンケートについては見直しの必要があるのでは。案としてはテーマを設定し回答しない。意見書き込みの場という形ではどうかと思った。

三浦委員長

これについて私も意見を書いているのだが、当初は各委員会から読者アンケートを使って市民に聞いてみたいことなどもあったのだが、結果的に今は自由回答のみになっている。限られた紙面の中で読者アンケートを毎号載せることの費用対効果はきちんと検証しないといけない。ただ、ボックスを設置することで1年間で二十数件の意見が入っていた。したがってアンケートボックスはそのまま設置しつつ、紙面での読者アンケートは費用対効果を皆で再度検証したらどうかと思う。

続いて定例会議の予定について村武副委員長から。

村武副委員長

最終ページの次回の定例会議の予定の欄、文章で書かれている

がすっきりと、箇条書きにしてはどうかと思った。

あと、左右の下に何月号と書かれているのだが、表現がどうかと感じた。例えば何号といった表記でよいのでは。

三浦委員長

こういった意見を踏まえ次回に正副委員長で紙面の校正案を皆に示したいが、今日各委員からの意見に対し、皆どう思うか。

川上委員

皆非常に前向きな案を出していたので、これを踏まえて正副委員長で紙面構成を考えていただくことは大事だと思う。

三浦委員長

ページ増減の話もあるので、皆の感想も伺っておきたい。すぐに取り組みそうなことは取り組みたい。読者アンケートのことや個人一般質問のところとか。

大谷委員は個人一般質問の項目を増やしたほうがよいと言われたが、この3年くらいは減らす方向で来ているので、方向性的には変わってくるかと思うが。議会だよりは議会の取組を伝えるということで、委員会報告なども今までなかったが、どうしても紙面のほかのところを削らなければならない。となると議会全体のトピックスはなかなか難しい。浜田市議会は個人一般質問をほぼ全議員がされるので、全体のボリューム感の中で見ると割くページが大きい。賛否はあったが、動画への誘導を含めて削ってきた。また、カラーとモノクロの料金差はさほどなかったように思うが。

小寺書記

今までの紙面単価を最終ページに記載している。フルカラーの今のほうがモノクロページのときより安いのが現状である。入札もあるので何とも言えないが。

三浦委員長

質問の中で複数の項目に触れている議員もおられる。松江の議会だよりなどは質問した項目を書く欄があり、その後一问一答形式で書いてある。これがあるだけで全体がわかるようになっている。一部分ではあるが、こういう形もある。

川神委員

以前、議会だよりの中で浜田もそういうことをやっていたことがある。その他の項目として上げて。それは逆に上げてよいと思うが、そうすると全体の紙面がその分減るかもしれないが、基本的にはあの紙面の中で言いたいことは言い切れない。それならYouTubeに誘導して、そういったところできちんと見てもらうような取組をするほうが望ましいのでは。多くの方が紙面を見ているよりもYouTubeで動画を見ているという実態もある。見られる方はほかの項目も上げる、本文を少し減らしてでも

川上委員

まとめていただくのが一番現実的だと思う。

せっかくなので今の意見はそうだと思う。村武副委員長が出されていた予算審査の分、大事なのは予算だけではなく決算も。決算あってこそその予算なので、決算についてもそういうことを考えていただいたほうがよい。

村武副委員長

一応提案はしているが、議員数やページ数の関係もあり、どうかと思いながら提案した。美咲町は決算もこのような形である。

三浦委員長

例えばだが、一般質問の欄を半分にすれば予算委員会や決算委員会でそれぞれの議員がどのような発言をしたか掲載できると思うが、皆はどう思われるか。予算上ページを増やすことはなかなか困難なので、16ページでやっていくことになる。例えば3月定例会議の予算だと、ページ担当者と協議しながら、これについては議論がたくさんあったという書き方で、そこで出た意見を議会の視点ということで、全体感として書いてはいるが、やはり個人の意見を掲載しようとするのでかなりページを割くことになるので、どこを削るかというところと一般質問になってくるかと思うが、逆に一般質問をさらに削るとなるとまた意見が出そうだが。

小川委員

そこは会派で話したときに、そういう方法もあるということを書いてあったことについて大反発があったので。私とすれば大谷委員が書かれているようなことだが、なかなか紙面上では難しい面もあるかもしれないが、要望は従来どおり3人1ページにという意向が強い。例えば各議員の支持者が、議員はこういう問題意識を持ってやっているということがわかりやすい、活動報告にもなっている。年配議員はまだSNSの活用が十分できてない。それに比べ議会だよりは全戸配布される。ぜひこれ以上は減らしてほしくない。一般質問の欄をこれ以上減らすのは大反対である。

川上委員

3月定例会議と9月定例会議のときだけは、もろもろ排除して一般質問と審査状況をメインにやっても構わないと思う。議員の本分を本当にやっているのかという気もする。

三浦委員長

非常に難しいところなのだが、議会だよりは何の情報が一番伝えるべきかということ。したがって委員会の活動の様子や、視察に行つてどういうことを学び、どう生かしていくのかは、しっかり予算を使ってやっていることだし、掲載すべきだろう。

そうなってくると、確かに個人一般質問はすごく大事な要素で

もあるし、これを全くゼロにするという議論ではないが、一般質問を掲載することで本来議会として伝えるべき情報が載せられない場合には、ボリュームは検討していかないといけない。今の情報量ありきではなく、議会として何を伝えていくべきなのかをしっかりと議論して、その中で限られたページを割いていくという議論だと思う。逆に3月や9月の予算・決算で、個々が発言されたことをピックアップするというのも、ページを割くということは一般質問のボリュームが減ってもどういう議員がどういう発言をしているかというページにもなる。市民対談もインタビューするのではなく何かのテーマに対する市民の声に対して、議員が何を思っているのかを掲載するのも、議員がどういう活動をしているかを伝えるには非常にアピールできるページになると思う。ただトータルして活動が伝わればよいのではという考え方もあるので、ぜひそこはしっかりと議論できたらよい。決して一般質問をもっと削減したいと言っているわけではない。掲載すべき情報が載っていないのであれば、それを載せるために工夫が必要だと。その議論はしなければいけないと思っている。

大谷委員

論議する趣旨の説明が再度あったので方向性については理解できた。一般質問で提案したのは、各議員がいろいろな視点を持って質問していることは伝えるべきだという思いで、枠内で書けるだけしっかりと書いたほうがよい。

毎回同じ紙面構成ではなく、予算・決算のあるときには市民対談をなしにしてやっていくとか、時期に応じて必要性を増やしたり減らしたりしながら、伝えたいことを伝える。議会だよりも多くの方の情報源になっていることは確かなので、できる限り議会で論じていることが紙面を通じて伝わるよう、個人一般質問もそれなりの要素を加味できるとよい。

三浦委員長

ほかにはどうか。読者アンケートや市民対談についても意見を伺っておきたいが。読者アンケートについてはどうか。

大谷委員

今回は必要性が弱いとなればカットして、ほかの内容に割り当ててもよい。

三浦委員長

質問シート、用紙は各まちづくりセンターに常設して、それに記入していただくこともできると思う。いただいた声は紙面で返していけば。16ページ中の半ページは非常に大きい。読者アンケ

一トは非常に大事だが、どうあるべきか悩んでいる。

上野委員

まちづくりセンターに用紙を準備しておくほうがよい。せっかくの議会だよりをそこだけ切りたくない気持ちになる。

小川委員

見直し案を書くところまでいかなかったというのは、結局このくらいのペースで見直していかないといけないというスピード感についていけない。ほかの会派からも例えば議会広報広聴委員会を経験された方に聞くと、今は早すぎて次に委員長をやる人は大変だなという意見がある。この見直し案についても市民が求める記事はどのようなかを想像しながら提案されたと思うが、議会だよりに対する市民の評価、検証はどのようなか。もっと知りたい内容を我々が具体的につかめれば、より市民の要望に応える紙面になる気がするが、なかなかそこまでいっていない。どちらかといえば議会側の都合で載せたいことが先行し過ぎて、ミスマッチを起こしているのではという気がする。市民が知りたい部分と我々が伝えている部分の検証を含めて。それもあってここをどうするかまでは追いついてない。

三浦委員長

市民はどういう部分を求められているのか。

小川委員

つかめてない。僕らも例えば議会改革などをやるが、どちらかというところマニフェスト研究所などで項目があるものを中心にやるのでも、実際議会改革にしてもやはり市民の利益につながることを意識したような議会改革でなければいけないと思うし、議会だよりの紙面構成についても、もう少しそこを聞く広聴機能も必要という気がする。

三浦委員長

すると紙面構成を考えていくにあたり市民にアンケートなりを取るべきだという意見を持っておられるという理解でよいか。

小川委員

そういうことも必要ではないかと思うが、それもなかなか難しいことではないかと思う。お互いにどう思うかという意見を集約しながらやったらよいのだが、そういう視点が今のところない。

三浦委員長

お言葉を返すようだが、ここは議論の場なので、であれば紙面を見直すときにそこまでまだ市民が本来求めていることが今の見直しにつながっているかどうか一致しないので、それを市民に聞いてみることをやってみてはどうかという意見をいただくのが、議論の場ではないかと思う。だから小川委員が指摘された部分を私も考えていくときに、例えば一般質問ではなかったときに、で

は議会が伝えたい情報ではなくほかの情報が上がってくればそれをベースに議論していこうという話にもなっていくと思う。それが必要だという意見を持っておられれば、それを委員会内で上げていただき、よりよくしていくというのがこの議論の場だと思う。そうした意味では、そうやってご意見を述べていただくと前に進みやすい。ご意見として伺っておきたい。

川神委員

今までやってきた議会改革や議会だよりもそうだが、スローペースだった。何か事が起こると即座に対応していくのはとてもよいことだと思うし、時代はそういうスピード感である。ただ、長らくいろいろなことをやっているとして1回何か変えたときにしばらく様子を見て、その中でいろいろ訂正して次のステップに行くのだが、そのための一定期間があったということ言われているのではないか。何か変えた、よくなったと思った、はい次さらに改革しようというスピード感が云々という話かなと個人的に思った。

議会報告会の中で、議会だよりを皆はどう見ているかといったことを多分聞いてない。だからそういうことを議会報告会や井戸端会の中で、これを読んでいるか、どこが読みにくいかな、といった議論をやった記憶がない。議会だよりに足りないもの、距離を埋めるために、そういう場が使える。

三浦委員長

よいアイデアもいただいた。今後議会だよりの紙面内容を市民に、どのような形で感想や意見をいただくかは検討していきたい。紙面の見直しは現状を維持するということでよいか。

川神委員

これを反映したような仮想の議会だよりの紙面構成を。これをやると実はこれだけ増えるとか、このようになるといったシミュレーションを。せつかくの意見が無駄になってはいけないので、シミュレーションしてみる作業は必要では。

三浦委員長

もちろん大きな紙面変更ではなくこちらの工夫で改善できる部分の意見もあるので、そういったところも踏まえ、紙面構成を一旦こちらから。ちょうど業者が変わるタイミングでもあるので注意しておかないといけないのが、デザインの踏襲が難しいので、デザインが変わってしまうのが単年度契約の難しいところでもある。今度入札があるが、新しい業者になる場合にはデザインが変わってくることもあるので、紙面を見直すタイミングは必然的に来るため、お伺いしている。

一旦、3月末くらいまでには業者とも打ち合わせが入ってくるので、それに間に合うように紙面の割りつけは考えないといけない。一旦正副委員長で、今日の意見を踏まえて構成し、しかるべきタイミングや手法を用いて市民にも紙面へのご意見を伺える場は持ちたい。そのように進めてよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではそのようにさせていただく。また案を提案したい。

大谷委員

業者絡みのことやデザインのことなど背景はわかった。見直したときに16ページありきではなく、本来の意図がきちんと伝わるために20ページにするのは本当に不可能なのか、シミュレーションはすべきと思う。現状で難しいのであれば納得もできる。せっかく見直しを論議するなら可能性を排除せず考えてほしい。

沖田委員

今、紙の値段がどんどん上がっている。今の予算でこのページ数が維持できるか。業者に聞いてみないとわからないが、逆にページ数を削らなければいけない可能性が高いのではと思うが。

小寺書記

令和5年度の予算要求を既にしてしているのだが、16ページをカラーで出したとき、令和4年度より高い金額の見積もりにはなっている。現状維持するために事務局としては、議会だよりに係る予算は上がっているが、全体の中でそこは調整している。

沖田委員

多分そのようなことになると思う。冒頭に委員長が、miniのほうはデジタルなので情報量の増減はある程度融通がきくと言われた。そういう現状ならminiのほうでも触れられるのではといった検討も今後はしていくべきだと思う。税金をチェックする我々がそれを湯水のように使うのは言語道断だと思うので、そういった検討も今後されていくべきかと思う。

三浦委員長

ページの増減については予算要求のタイミングにかかわってくるので、議論するなら早目にする必要がある。各委員でそういったところに考えをお持ちなら、ぜひ当委員会内で提案をいただき、プロジェクトチームなどでテーブルに上げていただく作業は大変歓迎する。提案は引き続きしていただきたい。

(2) その他

三浦委員長

紙面の見直しについて、そのほかご意見はあるか。

(「なし」という声あり)

4 1年間の取組の振り返りについて

(1) 振り返りと今後の取組

三浦委員長

2021年10月に今の委員会メンバーになり、2年間の活動方針を定め、2年間でどのような広報広聴活動をしていきたいと思っているかを皆に報告し、活動をスタートした。任期は2年だが、1年間の中間報告ということで現状を皆と共有しておきたいという思いから、振り返りをつくった。

(以下、資料をもとに説明)

以上、活動方針に対する1年間の中間報告、振り返りということでまとめさせていただいた。副委員長とも話しながら副委員長の意見もこちらにまとめて報告するものである。

振り返ってみると、せっかく議会活動をやっている、市民に伝わっていないのは非常にもったいないと改めて強く感じたので、議会の情報を発信するところも議論していけたらよいと思った。

先ほど小川委員からも意見をいただいたが、市民が求めているものをきちんと発していく、望まれている活動を議会がしっかりできているかは大事な視点だと思うので、そういったコミュニケーションも折に触れてしっかり持っていきたい。

中間報告なので、これについての意見や個別の事業に対する意見は、また委員会の中でいただけたらと思う。引き続き委員会活動にご協力をよろしく願います。以上で報告を終わる。

(2) その他

三浦委員長

何かあるか。

(「なし」という声あり)

また意見を聞かせてほしい。

5 その他

(1) 2/7全員協議会での報告

三浦委員長

小寺書記から願います。

小寺書記

2月7日の全員協議会での報告だが、今日、議会報告会を令和5年度に実施する方向性を定めたので、三浦委員長からお知らせいただけたらと思っている。具体的な部分はこれから詰めていくと

思うので、まちづくりセンター単位という方向性の説明までになるかと思うが、ご了承いただきたい。

三浦委員長

先ほどの項目、委員間討議してよかった。先ほど中間報告させていただいたが、皆から今の委員会活動状況などについて意見があれば伺っておきたい。議長団から何かあるか。

(「なし」という声あり)

川上委員

今後の議会広報広聴委員会の活動に対する意見でも結構だが。議会だよりの本筋は議員個人の一般質問内容の発表や、委員会の活動状況の発表程度で終わっているのが非常に残念である。議会が何をしているか、市民のために何をしているかがなかなか見えづらい。その点を今後考えていく必要があるのではないか。先日の研修会にあったように、議員としてやるべきことは何かをもう一度考え直す必要があると思う。議会だよりにについても、そういうところをもう少し出していく必要があるのではと考えている。

三浦委員長

ほかには。

(「なし」という声あり)

小寺書記

では次回の委員会の日程について、小寺書記からお願いします。12月定例会議が終わった段階で皆にお知らせしている、2月17日金曜日。議会運営委員会が午前中であって、午後1時30分からお願したい。内容はV o 1 . 69の紙面や原稿の担当がメインになるかと思う。2月7日の全員協議会で議会報告会のことも報告するので、もう少し具体的などころも詰めていけたらよいかと思う。

三浦委員長

では2月17日金曜日の午後1時30分からということで、次回委員会を設定したい。よろしいか。

(「異議なし」という声あり)

調整をよろしくお願いします。ほかに皆から何かあるか。

(「なし」という声あり)

本日の議会広報広聴委員会は以上で終了する。

[15時 45分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 三浦 大紀